

令和 6 年度 第 1 回 燕市生涯学習推進協議会 会議録(要旨)

日 時 令和 6 年 8 月 23 日(金) 午前 10 時 00 分～11 時 30 分

会 場 燕市役所 3 階 301 会議室

出席委員 小野塚 美鈴 委員、木村 久栄 委員、小林 美智子 委員、田辺 美香子 委員
田野 正則 委員、中島 純 委員、二平 芳信 委員、野嶋 フミイ 委員
福田 智子 委員

欠席委員 水野 晶子 委員、宮路 美也子 委員、柳原 康浩 委員

事 務 局 教育長 小林 靖直、教育次長 岡部 清美
社会教育課長 石黒 昭彦、課長補佐 古澤 百合子
生涯学習推進係長 石村 由紀、主事 吉田 伊織

報道機関 なし

傍 聴 者 なし

議 題 報告

- (1) 燕市生涯学習人材バンクの令和 5 年度実績について
- (2) 第 2 次燕市生涯学習推進計画における令和 5 年度の成果協議
- (1) 第 2 次燕市生涯学習推進計画の総括
- (2) 第 3 次燕市生涯学習推進計画 令和 6 年度目標値について

[以下、会議録(要旨)]

報告

(1) 燕市生涯学習人材バンクの令和 5 年度実績について
《事務局説明》

○委員

令和 4 年度、5 年度ともに実績は福祉・教育・子育てで 1 件のみであり、他はゼロである。これは何が原因なのか。

○事務局

コロナ禍の影響により利用がなくなり、その後も利用が戻ってきていない。

○委員

文化教養趣味の中の「国民娯楽」とはどのようなものを指すのか。

○事務局

けん玉等が入っている。わかりづらいというご指摘をいただくので、今後検討したい。

(2) 第2次燕市生涯学習推進計画における令和5年度の成果

《事務局説明》

○委員

項目が多岐にわたるが、評価についての説明は担当課からの意見か。各課との連携について何か会議が設けられているのか。

○事務局

まず一点目、評価については増減要因を担当課から報告してもらい説明させていた

っている。

また、関係課との会議については行っていないが、随時意見交換を図っている。

○委員

担当課だけではできないことが多々あると思うので、市全体で連携をとり、目標達成していただければと思う。

○委員

庁内で連絡会議のような会議は開かれてないのか。

○事務局

計画策定の際には開催しているが、毎年度については各課に数値の状況や反省点などを確認し、協議会にあげさせていただいている。

○委員

実績が90%未満だと×になり、非常に厳しい評価方法となっている。昨年度会長が言われた通り、数字ではなく、取り組んだ中身が重要であると思う。

前年度に対して数値が上がっているものもある。目標が高すぎるものもある。もう少し目標を下げるなり、評価基準を見直すなりしたほうが良いと思う。

○事務局

前回もそのようなお話があり、厳しい評価をしていると認識している。目標達成にはある程度の厳しさも必要ということで、今まで取り組んできた。

新型コロナウイルス感染症の流行が、この第2次計画の期間にあたっており、総合計画との整合等で計画を1年延長した中で、目標値の変更を検討したが、あまりに急激かつ未曾有の出来事であったため、目標値については第3次計画で要因分析をして設定することとし、目標値についてはそのままとさせていただいた。

第2次計画は令和5年度で終了するため、第3次計画についてはご意見を踏まえて検討を行っている。

また、今後8年間、環境は変化していくことから、第3次計画は中間での見直しを行うことを考えている。

協議

(1) 第 2 次燕市生涯学習推進計画の総括

《事務局説明》

○委員

第 2 次計画の期間は、時代の転換期とも言える。コロナが最も大きいインパクトだったが、他にも、少子高齢化や人口減少が進んだ。そうしたこともあり、新しい生活様式、新しい生涯学習様式への移行といったものが問われている。

行政サービスも DX 化に舵を切ったが、思うように進まなかった部分もある。

コロナ期間の巣ごもり需要で、図書館の利用が、増えないまでも、横ばいとなっていた。電子図書の利用は、この数字に反映されているのか。

○事務局

電子図書館の利用については第 2 次計画の目標値に反映できていないが、年間 5,000 タイトルほどの利用がある。

○委員

学校現場ではタブレットが活用されており、子どもがデジタルで本を読むスタイルに変わってきている。第3次計画では、電子書籍のニーズや利用について押さえる必要がある。

(2) 第 3 次燕市生涯学習推進計画 令和 6 年度目標値について

《事務局説明》

○委員

基本目標 1 に、標準学力検査の目標指標があり、燕市学校教育基本計画と整合性がとれていると思っている。標準学力検査については、今まで 4 月、5 月に検査を実施していたため、中学 1 年生は英語の検査が出来なかった。しかしながら、今後は 1 月、2 月に検査を実施することとなったため、合計 9 教科となる。

学校教育基本計画にあわせて令和 6 年度の目標値が定められていると思うので、学校教育課と調整して欲しい。

2 点目に、18 歳以下の 1 人当たりの年間貸出し冊数。私は、本の貸出し数は増えていないと思っている。学校についても同じで、特に高校生、中学生はほとんど携帯で本を読む。小学生でも、1 人 1 台端末で本を読むようになっている。

したがって、目標値は増加を見込んでいるが、現状維持がやっとではないか。

○事務局

市としても電子での読書の重要性を認識しており、現在、子ども読書活動推進計画を策定しているが、電子書籍を含めた中で読書活動を推進していきたいと考えている。そのた

め、生涯学習推進計画でも増の目標を設定したい。

○委員

電子書籍を入れるのであればよいと思うが、その旨を記載する必要がある。

○委員

ニュースで全国学力テストについて放送していたが、新潟県の小学生、中学生は全教科で全国平均点以下ということだった。特に中学 3 年生の数学が極端に悪いそうだが、燕市はどうか。

○事務局

数学については、燕市も同じ傾向を示していたと記憶している。

学力向上について、燕市では読解力育成プロジェクトなどに取り組んでおり、正答率だけでは見えないが、向上している部分がある。一概に正答率の平均を見て一喜一憂するのではなく、細かい分析が必要と考えている。

○委員

企画財政課の市民意識調査がいろいろな指標で出ているが、これは毎年実施している調査か。

2 点目に、目標値は小数点以下二桁まで必要か。

3 点目に、資料館の移転があるようですが、そのために 13 年度の目標は大幅増を見込んでいるのか。

最後に、情報発信の満足度について、令和 6 年度と、令和 13 年度の目標値がほぼ変わっていないことは非常に残念だが、どういうことか。

○事務局

企画財政課の市民意識調査は年 1 回行っている。

小数点以下二桁まで必要かについては、現況地と目標値の差がわずかであり、小数点以下をなくしてしまうと変化が見えなくなってしまうことから、小数点以下二桁まで記載することとした。また、母数が大きく、市民一人当たりを表す場合でも、分かりやすいと考えて表記している。

史料館の移転が目標値に反映されているかについては、良寛史料館の移転については計画を作成している段階であり、規模等も決まっていない為、目標値には反映していない。今後、計画が定まってきた際に反映について協議していきたいと考えている。

情報発信の目標値は、ここ数年で大きく変化していない為、担当課と協議の上設定させていただいたが、今後検討させていただきたい。

○委員

人材バンクの活性化については、登録者数ではなく利用状況を目標値としたほうがよいのではないか。

○事務局

今後につきましては、利用団体数などの取組実績についても目標値とあわせて管理して

いきたいと考えている。

その他(意見交換)

○委員

これまで、第 2 次計画では、コロナ禍の影響が大きかったと思うが、第 3 次計画ではコロナ禍という理由では通用しない。今後は、コロナ禍の影響があるとしても、それを踏まえた上で対応していくというような形で、説明していただきたいと思う。

閉会